

日本高等教育学会 2018 年度研究交流集会の開催（お知らせ）

日本高等教育学会では、会員を始めとした高等教育に関心を持つ方々の間での質の高い交流の場を創っていくために、有望・気鋭の会員数名をお呼びし、参加者がじっくり議論する研究交流集会を実施しております。本年度は、大阪大学の豊中キャンパスにて12月8日（土）に開催いたします。ご参加の皆様とご一緒に、今後の高等教育研究のあり方を探っていきたくと存じます。みなさまどうぞ奮ってご参加ください。

【実施概要】

1. 日 時：2018年12月8日（土）11時00分～18時00分
2. 会 場：〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1
大阪大学豊中キャンパス全学教育推進機構 総合棟 I 2F セミナー室 B
3. 後援：広島大学高等教育研究開発センター
4. プログラム：

10:30-11:00 受付

11:00-11:05 開会の辞

11:05-11:35 第1報告 和嶋 雄一郎（大阪大学）

テーマ：

SERU (Student Experience in the Research University) を利用した研究大学における大学生の経験の国際比較

SERU (Student Experience in the Research University) は、アメリカ (AAU) を中心とした世界の研究大学が、共通の項目を用いて、学生の経験を把握することを目的としたアンケート調査である。SERU では、学習の状況や時間の使い方、能力の自己評価、満足度などを調査している。SERU の調査結果を使用し、海外の研究大学と日本の研究大学の学生の経験に関する違いを明らかにし、学生の経験の視点から大学の国際化に向けた問題点を検討する。

11:35-11:50 コメント 木村拓也（九州大学）

11:50-12:20 討議

司会：山田礼子（同志社大学）

12:20-13:30 昼食

13:30-14:00 第2報告 内田康弘（日本学術振興会特別研究員 PD（愛知教育大学））

テーマ：

多様化する後期中等教育機関を経由した大学進学行動に関する事例検討

1990年代以降、日本社会では後期中等教育機関が多様化し、不登校や高校中退経験など教育上の多様なニーズを抱えた生徒が、そのような教育機関を経由して大学への進学を選択している現状がある。本報告では、多様化する後期中等教育機関の概況を整理しつつ、特に、過去25年間で顕著な増加傾向にある通信制高校・サポート校に焦点を当て、フィールドワークに基づく質的分析を通じて、そこを経由した大学進学行動の一端を描き出し、その成果と課題について事例検討を行うことを目的とする。

14:00-14:15 コメント 立石慎治（国立教育政策研究所）

14:15-14:45 討議

司会：森 朋子（関西大学）

14:45-15:15 第3報告 松宮慎治（広島大学大学院・神戸学院大学）

テーマ：

私立大学に対する競争的資金配分の動態と成果（仮題）

内容：本報告では、私学助成の競争的配分をめぐる2つの分析を行う。第1では、私立大学等改革総合支援事業タイプ1への申請行動と成果を、機関の主観変数に着目しながら明らかにする。第2では、私学助成全体に焦点を拡大し、補助金が私学経営にどう貢献するかを時系列分析によって推定する。以上の分析を総合することで、私学助成の競争的配分の動態を描くとともに、政策の批判的検討を試みる。

15:15-15:30 コメント 浦田広朗（桜美林大学）

15:30-16:00 討議

司会：羽田貴史（東北大学名誉教授・広島大学客員教授）

16:00-16:20 コーヒーブレイク

16:20-16:50 第4報告 中島夏子（東北工業大学）

テーマ：

アメリカの学士課程教育における卒業研究の位置づけに関する事例研究

近年の日本では、「プログラムとしての学士課程教育」を目指したカリキュラムの体系化と実質化が求められている。本研究は、そのモデルとなっているアメリカの学士課程教育において、卒業研究（Senior Thesis）がどのように位置づいているのかについて、スタンフォード大学を中心とした事例研究を行う。そして、なぜアメリカでは卒業研究を必修にする大学が少ないのかを、カリキュラムの観点から明らかにする。

16:50-17:05 コメント 杉谷祐美子（青山学院大学）

17:05-17:35 討議

司会：安部有紀子（大阪大学）

17:35-18:00 総括・会長講話 荒井克弘（日本高等教育学会会長・大学入試センター）

18:00 閉会の辞

18:30- 懇親会

研究交流集会企画担当委員会：羽田貴史、伊藤彰浩、村澤昌崇